

絆

題字
堤 美幸 前理事

(新潟市青少年育成協議会創立60年の節目を契機に第12号から題字を刷新しました。)

新潟市
青少年育成協議会

第14号

●発行●
令和6年1月17日

●事務局●
新潟市教育委員会
地域教育推進課

つながりを大切に

新潟市青少年育成協議会

副会長 比企 裕子



新年あけましておめでとうございます。今年度とつごうございます。今年度より副会長をおおせつけられました比企裕子と申します。日頃より当会の活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、今年度五月より長かったコロナ感染症に対する規制もゆるみ自由に活動できる喜びを感じておりますが、まだまだ感染症がなくなつたわけではありませので、気をつけながらの活動となつていふことと思います。

十月末の育成協会長・事務局研修会においての郷会長との挨拶の中で、「おとなは子どもたちの本気の気持ちをおかっているのだろうか」という声を耳にすると話していました。たしかに、おとなたちは「子どもたちのために」と支援センターや子どもの居場所といったものをつくっていますが、これも中央区に集中し、徒歩や自転車、電車などの交通手段しかない子どもたちにとって行きづらい場所の子も多くいること

思います。そして、私自身が子どもの頃はどんなふうに通っていたのか？と思ひ起こすと、田園風景の中で毎日、近所の友達と遊び、学校では放課後暗くなるまでおしゃべりをし、「学校は友達がいるところ」という認識がいちばん強かつたと思います。ましてや、家で一人で誰かとながるということが一切なく、テレビゲームもなく、テレビは一家に一台、父とプロレスを見るかアニメを見るかで毎週ケンカをしていた覚えがあります。それでも、家族でテレビを囲み、見たくもないプロレスを見ながらみんなで一緒にご飯を食べ、近所の人が自由に遊びに来たり、行ったりする昭和な雰囲気は漂っていました。(正に昭和が希薄になつていける世の中で少しでも地域の皆さんが繋がっていきけるようたくさんのイベントに参加してもらいたいと願っています。

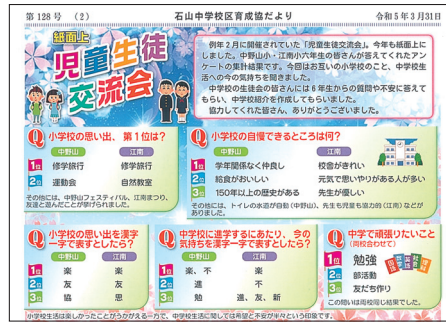
今年度は私の主幹する大江山地区でも四年ぶりにスポーツ大会を開催しました。参加した大勢の子どもたちの中には、以前参加していた高校生の顔も見えて、主催者としてはとても嬉しかったです。これを機に地域の皆さんが交流を深め、自然と挨拶ができる地域になつていくことを願っています。

令和五年度 県・市功労者表彰受賞者紹介

令和五年度 新潟市青少年育成協議会 役員紹介



石山地区 矢坂 貴子様
十二年間、石山地区青少年育成協議会の活動内容を「育成協だより」に掲載し、地域住民にお知



らせてきました。特に毎年、標語の取りまとめや小学校及び中学校三年生の「卒業おめでとう」の記事を掲載し、次年度の企画に貢献しました。あわせて石山中学校の変革にも力を発揮しました。



写真右から
郷会長
石山地区 高橋会長
(矢坂様ご欠席のため高橋会長が受け取りました。)
後藤課長

※青少年健全育成県民会議会長表彰及び青少年健全育成功労者新潟県知事表彰の該当者はいませんでした。

六月十五日(木)の年次総会において、令和五年度の役員が承認されましたのでご紹介いたします。

- (敬称略・カッコ内は地域名)
- 会長 郷 扶二子 (西区・坂井輪)
 - 副会長 池田 陽 (西蒲区・潟東)
 - 副会長 比企 裕子 (江南区・大江山)
 - 理事 寺山 則雄 (北区・松浜)
 - 理事 佐久間沙都美 (北区・木崎)
 - 理事 中川 薫 (東区・藤見)
 - 理事 高橋 正美 (東区・石山)
 - 理事 宮原 務 (中央区・新潟柳都)
 - 理事 関川 弘雄 (中央区・有明台)
 - 理事 宇野 耕哉 (江南区・横越)
 - 理事 山田 道夫 (秋葉区・中央)
 - 理事 山田 啓一 (秋葉区・新関)
 - 理事 西村 祐一 (南区・白根一)
 - 理事 滝澤由佳里 (南区・白井)
 - 理事 五十嵐陽子 (西区・小新)
 - 理事 笠井 敏夫 (西蒲区・西川)
 - 理事 滝澤 剛平 (東区・山の下)
 - 理事 増井 智子 (東区・東新潟)

よろしくお願いたします。



新潟県 防犯功労者表彰
新潟県犯罪のない安心で安全なまちづくり県民大会2023において、郷 扶二子会長が功労者表彰を受賞されました。

わたしの主張 新潟市地区大会

八月十九日（土）、黒崎市民会館を会場に、わたしの主張新潟市地区大会を開催いたしました。市内の中学生百五十三名の応募の中から選ばれた八名が、日ごろ考えている思いを熱く語りました。

司会は、坂井輪中学校 年渡邊みのりさん、同校三年佐藤遼汰さんが務めました。

審査の結果、最優秀賞は、大江山中学校二年飯塚巧磨さんが、優秀賞は、新潟明訓中学校三年伊藤萌奈美さん・大江山中学校三年栗原日菜さんが、それぞれ受賞しました。

飯塚さんは市の代表として県大会（巻文化会館）に出場し、心のこもった素晴らしい発表をしました。県大会では、飯塚さんは奨励賞を受賞しました。



発表者、司会者及び審査員による記念写真

（発表順 敬称略）

“わたしの主張” 発表されたみなさん

学校名	学年	氏名	発表テーマ
曾野木中学校	2	野上 妃菜	挨拶は魔法の言葉
内野中学校	3	西村 茅春	アンチコメント、悪口について考える
○新潟明訓中学校	3	伊藤萌奈美	別れる時は笑顔で
新潟柳都中学校	2	櫛谷 和音	差別をなくすために
○大江山中学校	3	栗原 日菜	大切な命を
内野中学校	3	目黒 佑真	後悔しない生き方を
黒崎中学校	3	関川さやの	少数派の声を聞こう
◎大江山中学校	2	飯塚 巧磨	同情はいらない。それよりも理解を

◎最優秀賞 ○優秀賞

新潟市地区大会 最優秀賞



新潟市立大江山中学校 二年 飯塚 巧磨

「同情はいらない。それよりも理解を」

皆さんは「糖尿病」と聞いて、真っ先にどんなことを思い浮かべますか。太っている人とか、だらけている人など、あまりよいイメージを抱かない人が多いと思います。僕もそういった印象がありました。しかし、糖尿病には二つの種類があります。一つは生活習慣病であるⅡ型糖尿病。もう一つはⅠ型糖尿病です。これは先に述べたものとは違い、理由が分からず突然発症するもので、体の中で「インスリン」という物質を作れなくなってしまう病気です。インスリンが分泌されないことと血糖値を抑制することができず、

体に様々な悪影響を及ぼします。そして、この病気は、現在の医学では完全に治すことはできません。

僕は、このⅠ型糖尿病です。定期的に注射を打ってインスリンを取り込まなければいけません。体内の血糖値を人工的に管理するのです。僕は一生、インスリン注射を持ち歩き、常に一定の血糖値を保つようにしなければいけないのです。

僕の体に、この病気が発見されたのは小学校五年生の三月のことでした。その少し前から、母に

「巧磨、あなた最近なんだか変だよ。おやつをあれだけ食べても、全然体型が変わらないんだから。」

そう言われて体重計に乗ってみると、増えているどころか体重は減っているのです。すぐに病院で検査をしたところ、ドクターから、「Ⅰ型糖尿病ですね。」と告げられた時は、頭が真っ白になり、もうどうして良いか分かりませんでした。

「えっ、「糖尿病」って、どういうこと？あれは大人の人がかかる病気だろ？何で子どもの僕が…？」まもなく小学校六年生の始業式が始まるというのに！悔しいやら切ないやら悲しいやら複雑な思いで、泣きそうになってしまいました。

僕はそのまま入院となりました。僕の誕生日は四月中旬で、「今年には病院で十二歳の誕生日を迎えるのかなあ。」と落ち込んでいました。ところが、担当のドクターが、

「大丈夫、君の誕生日までには絶対退院させてあげるよ。」

と力強く請け合ってくれました。僕はその言葉を励みにして、一日でも早く退院できるように治療に専念しました。そして、自分の今の体に、きちんと向き合わなければいけないことも学びました。

退院してからも、血糖値の測定や、食事の前のインスリン注射は欠かせません。学校でも、注射を打つ場所の確保など配慮をしてもらっています。しかし、

なにより周囲の理解が一番大切なのです。以前テレビで、Ⅰ型糖尿病患者の方の学生時代についてインタビューをした番組を見たことがありました。その人は、学校の先生からの説明が不十分であったため、クラスのみならず病気のことを理解してもらえず、注射をしているときに邪魔をされたり、血糖値を安定させるために摂取しなければいけない「捕食」を、「なんでおまえだけ食ってんだよ。」「俺にもくれよ。」などと言われたりしたそうです。無理解からのいじめや医療行為の妨害は、その人の命を奪ってしまうほどに恐ろしい行為です。その人の、身体と心の両方を傷つけることになるのです。また、

「あの、糖尿病なんだって。」
「しょっちゅう注射とか打たなきゃいけないんだってさ。」
「えっ、大変なんだ。」
とか言う人もいますが、同情するよりも、病気のことを理解し、その人と接してほしいと思います。

僕は学校へ行けば当たり前のように授業を受けていますし、運動もごく普通に行っています。しかし、この病気は完治しませんが、血糖値の管理を怠ると、いつ倒れてもおかしくないのです。一日中注射の針を使う、一人ではとても辛い病気です。しかし、そんなとき、クラスのみならず先生方がいてくださると、とても心強いのです。体調が悪くて倒れてしまい、自分ではどうしようもない状況に陥っても、友達や先生、家族、僕を取り巻く周囲の人々のおかげで、僕はこうして、この辛い病気と向き合えています。

こうしたことは、僕の場合だけではありません。他の病気や障がいを持った人にも言えることだと思います。その人のことを正しく理解し、必要なサポートをする。同情は必要ありません。過度な心配も必要ありません。僕を理解してくれるみなさんの存在で、僕は救われているのです。

令和6年1月17日 第14号

各区青少年育成協議会の活動紹介



秋葉区



秋葉区育成協では、4月16日（日）に区内一斉クリーン作戦を実施しました。5,865名が参加して地域をきれいにしました。



北区



木崎地区育成協では、8月2日に曾我ひとみさんをお招きし「拉致問題啓発セミナー」を開催しました。被害者の生の声を聴き、拉致問題への関心が高まるとともに一刻も早い解決を願いました。



南区



白南中学校区育成協は新飯田、茨曾根、庄瀬の3小学校区育成協で構成されています。写真は新飯田祭りです。祭りの巡視はPTAと育成協のみなさんが行います。



東区



藤見中学校区育成協では、10月2日と3日に「じゅんさい池公園整備活動」を実施しました。中学生が公園の草刈りやごみ拾いを熱心に行いました。



西区



黒埼地区育成協では、毎年1月に『青年のつどい』を10年以上開催しています。二十歳のお祝いを地域みんなで応援しています。



中央区



鳥屋野中学校区育成協では、新潟県産チューリップの球根を小学生と一緒に植え、春には色とりどりの花が児童の登下校を見守りました。



西蒲区



潟東地区育成協議会では、青少年の非行を防止するため、7月14日に潟東中学校の校長先生を訪問し、非行防止啓発用のティッシュの配布をお願いしました。



江南区



亀田地区育成協では、8月6日に宇宙をテーマに「子ども夏まつり in KAMEDA」を亀田市民会館で4年ぶりに開催しました。子どもにとって良い体験となりました。

非行・被害防止キャンペーン2023

青少年の非行・被害防止全国強調月間の取組として、七月八日（土）に、街頭PR活動を実施しました。今年度も、各地区育成協会員や青少年関係団体等から、約百二十名の皆様の「ご参加をいただきました」。



街頭PR活動の様子

今年度も、感染予防の観点から配布活動のみを行いました。新潟駅や万代シティ周辺で、啓発チラシと、ペットボトルカバーをセットにして約千八百セットを配布しました。

関係団体の子どもたちの元気な呼び掛けに、受け取る市民や旅行者の方からも自然と笑顔が溢れていました。

**標語・ポスターコンクール
—入賞作品—**

少年の非行・被害防止全国強調月間の取組として、標語及びポスター（イラスト）を募集しました。

テーマは、「インターネットの正しい利用」と「万引き防止」です。市内の小中学生から標語部門九百五十点、ポスター部門二百三十六点の応募がありました。

審査の結果、次の作品が入賞しました。

標語部門（敬称略）

- ◆インターネットの正しい利用の部
 - 《最優秀賞》 曾野木中一年 五十嵐未空
 - 「消えないよ 傷も履歴もその罪も」
 - 《優秀賞》 小瀬小六年 渡邊 貴翔
 - 「傷つけた心の穴はふさげない」
 - 《優秀賞》 真砂小六年 西山 広翔
 - 「その言葉 自分に向けても 言えますか？」

- ◆万引き防の部
 - 《最優秀賞》 宮浦中二年 松鷹 真琴
 - 「万引きは やらないさせない 見逃さない」
 - 《優秀賞》 山の下小五年 小林 凜
 - 「まんびきで かぞくのえがお かなしみに」

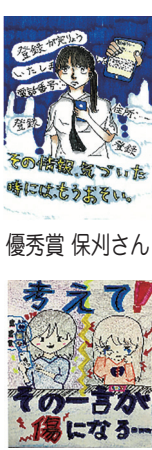
- 《優秀賞》 味方中一年 田村 春真
- 「子どもでも万引きしたら はんごいっや」

ポスター部門（敬称略）

- ◆インターネットの正しい利用の部
 - 《最優秀賞》 宮浦中一年 波多野心結
 - 《優秀賞》 巻南小六年 保刈 季桜
 - 《優秀賞》 真砂小六年 江口 愛菜



最優秀賞 波多野さん



優秀賞 保刈さん

優秀賞 江口さん

- ◆万引き防止の部
 - 《最優秀賞》 宮浦中三年 今井 桃子
 - 《優秀賞》 真砂小六年 外石 渥子
 - 《優秀賞》 鳥屋野小五年 佐藤 彩和



最優秀賞 今井さん



優秀賞 外石さん



優秀賞 佐藤さん

標語・ポスターの展示

「インターネットの正しい使い方」及び「万引き防止」の標語・ポスターのうち、受賞作品（最優秀賞・優秀賞・奨励賞）を次の場所で展示しました。

どの会場でも多くの市民の方から見ただけ、非行被害防止に向けての機運が高まりました。



場所	期間
中央図書館（ほんぽーと）	7月15日（土）～ 8月1日（火）
ラブラ万代	8月8日（火）～ 8月17日（木）
イオン新潟南	9月25日（月）～ 10月12日（木）

会長・事務局研修会



講師 山口 靖博 様

十月三十一日（火）、黒崎市民会館において会長・事務局研修会を開催しました。

前半は、「コミュニケーション（以下CS）」

の実践紹介を白南中学校及び岩室中学校の二校からしていただきました。続いて新潟市教育委員会教育総務課副参事の山口靖博様からご指導をいただきました。

ポイントは「目指す方向に進むために現実を支えることが大切である」と強調されました。今後の育成協活動を一層充実させることにつながるヒントをたくさん見出すことができました。

参加者からは、「すばらしい実践紹介だった。もっと詳細を知りたいな」と、「このような研修会を繰り返すことでCSの理解が深まっていく。」等の意見が寄せられました。

後半は、CSの現状やコロナ禍後の各育成協の取組をグループに分かれて話し合いました。参加者からは、「他地区の現状や課題を知り、今後の取組の参考にすることができた。」等の意見が多数寄せられました。



熱心なグループ討議

*新潟市青少年育成協議会は新潟市からの補助金を受けて運営しています。